PARAMOUNT NEWS
パラマウントニュース
Vol.44　2022　春号

パラマウント硝子工業株式会社
https://www.pgm.co.jp
（業務推進部）
〒102−0083
東京都千代田区麹町 2-4-1 麹町大通りビル
TEL：03-4582-5370

等級5が4月に施行
断熱等級 長期優良 省エネ基準 など
省エネ強化策がいよいよ動き出す

この1年間にわたって議論されてきた省エネ強化に向けた施策がいよいよ動き出す。まず、住宅性能表示制度でZEH水準の等級として新設される断熱等性能等級の等級5などがこの4月に施行される。その後も10月にさらに上位等級の等級6、等級7が施行される予定など、22年度から省エネに関する新たな施策が相次ぎ施行されることとなっている。新たな省エネ強化策について、今後のスケジュールを含めて改めて紹介する。

この1年間に議論されてきた新たな省エネ強化策で、最初にスタートするのが住宅性能表示制度の断熱等性能等級の「等級5」と一次エネルギー消費量等級の「等級6」である。この4月1日から施行される。

昨年8月の「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」のとりまとめで、2030年までに省エネ基準をZEH基準に引き上げることが示された。

そこを目指す誘導施策として、長期優良住宅、低炭素建築物の認定基準などのZEH基準への引き上げと、住宅性能表示制度における断熱等性能等級とエネルギー消費量等級にZEH基準の省エネ性能に相当する上位等級を新設することが検討されてきた。

4月からスタートする断熱等性能等級「等級5」と一次エネルギー消費量等級「等級6」は、そのZEH水準の等級として設けられたものだ。

そして、断熱等性能等級「等級5」、一次エネルギー消費量等級「等級6」は、認定長期優良住宅、認定低炭素住宅、建築物省エネ法に基づく性能向上計画認定に係る誘導基準の基準となる。

認定住宅などの省エネ性能に関する認定基準の見直しは今年10月1日からとなっている。

断熱等性能等級「等級5」のUA値は、例えば東京などの6地域で0・6となっている。10月1日からは、長期優良住宅などに求められる断熱性能は、新たな等級に引き上げられる。

等級6、等級7も新設 施行は10月1日を予定

住宅性能表示制度の断熱等性能等級では、さらに上位等級の「等級6」、「等級7」の新設も進む。

「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」のとりまとめで、より高い省エネ性能を実現するトップアップの取り組みをより推進していく観点から、ZEH水準を上回る等級として設けられるのが、等級6・7である。

その断熱性能は東京などの6地域で等級6がUA値0・46、等級7がUA値0・26。「2020年を見据えた住宅の高断熱化技術検討委員会」（HEAT20）の外皮性能グレードを参考に設定された。

この等級6・7の施行も今年10月1日を予定されており、現在行政手続きが進められている。

一方、省エネ基準の適合義務化については、具体的な環境整備の方策の検討が進む。

先ごろ開かれた社会資本整備審議会第46回建築分科会などの合同会議で、適合義務化について、2025年度以降に新築される原則すべての建築物を対象に、現行の省エネ基準の適合を義務付けるとした。

また、省エネ計算によらず仕様基準で省エネ基準への適合確認ができる場合は、省エネ適判を求めず、建築主事や指定確認検査機関が建築確認・検査において、省エネ基準への適合を確認することとした。設計者や審査側の負担軽減に配慮した。

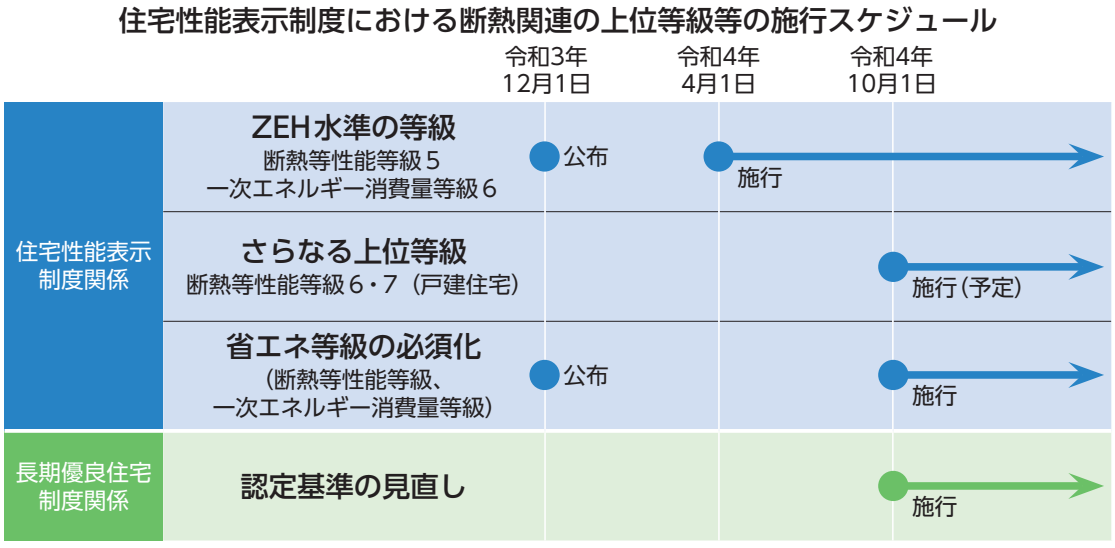
一方で、適合義務化には、建築物省エネ法等の改正についての法案成立が必要だが、現在、開かれている通常国会への法案提出が見送られる公算が高まっている。

こうしたなかで、先ごろ（一社）住宅生産団体連合会が、今国会への法案提出と早期成立を明記した要望書を国土交通大臣に提出した。

断熱等性能等級の等級4、等級5とZEH水準を上回る等級の基準案

現行水準			地域の区分 1	2	3	4	5	6	7	8
住宅品確法断熱等性能等級	等級4（省エネ基準）	U_A	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
		η_{AC}	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
	等級5（ZEH水準）	U_A	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	—
		η_{AC}	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
	等級6（ZEH水準を上回る等級）	U_A	0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46	—
		η_{AC}	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	5.1
	等級7（ZEH水準を上回る等級）	U_A	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	0.26	—
		η_{AC}	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	—

住宅性能表示制度における断熱関連の上位等級等の施行スケジュール



TOPICS

こどもみらい住宅支援事業の専用Webサイトが開設
国土交通省

子育て世帯や若者夫婦世帯による高い省エネ性能を持つ新築住宅の取得や住宅の省エネ改修等に対して補助する「こどもみらい住宅支援事業」の専用Webサイトが開設した。

Webサイトでは、事業の詳細な内容のほか、Q&A、対象製品など、こどもみらい住宅支援事業の情報を掲載しており、利用を促している。

URLは、https://kodomo-mirai.mlit.go.jp/

こどもみらい住宅支援事業の専用Webサイトのトップページ

令和3年の住宅着工　5年ぶりの増加に
国土交通省

令和3年（1月〜12月）の新設住宅着工戸数は、前年に比べ5.0%増の85万6,484戸となり、5年ぶりの増加となった。利用関係別では持家が同9.4%増の28万5,575戸、貸家が同4.8%増の32万1,376戸、分譲住宅が同1.5%増の24万3,944戸とすべて増加。

首都圏の中古住宅の成約件数が過去最高に
（公財）東日本不動産流通機構

2021年1月〜12月の1年間の中古住宅の成約件数が過去最多となったことが、（公財）東日本不動産流通機構の調査で分かった。特に中古戸建住宅は、前年比17.1%増の1万5,436戸で、過去最多だった2020年を更新した。

ご採用ビルダー CloseUp

陸前高田市で高断熱高気密住宅を牽引
地域にあった長く暮らせる暖かな家を

東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市。
東北といっても比較的温暖なこの地で、高断熱・高気密の家づくりをリードしてきたのが及川建築事務所の及川さんだ。

及川建築事務所の及川さんが手掛けた小山様のご自宅

一枚の木の板から始まった趣味と遊び心が詰まった家

及川建築事務所
及川裕敏 氏（左）
岩手県陸前高田市市高田町字西和野91の6
TEL 0192-55-4012

お施主様
小山公喜 氏（右）

岩手の4地域で暖かな家づくりを牽引

奇跡の一本松を臨む高田松原津波復興記念公園から山側に約3㎞ほどに位置する及川建築事務所。及川さんは、この地で東日本大震災以前から地域の仲間たちとともに暖かな住まいづくりに取り組んできた。

陸前高田市は岩手県の沿岸部最南端に位置し、県内では温暖な地域で、省エネ基準の地域区分では4地域に該当する。また、日照時間の多さは日本有数でもある。それだけに東北であるにもかかわらず、住宅の断熱化の意識は決して高いとは言えなかった。

この地で及川さんは長く〝暖かな家づくり〟に取り組んできた。二十数年前から外断熱と基礎断熱、屋根断熱を併用する家づくりを行う。

また、自ら断熱材を購入し、地域の工務店や大工職人が高断熱を手掛ける場をつくり、気密についてもパラマウント硝子工業と一緒に勉強会を開催するなど、自ら知識・経験を積むと同時に地域への普及を進めてきた。平成26～27年頃に始めた取り組みだ。

自然豊かな地域特性住み方にあわせた家を

暖かな家づくりに対する熱意は、平成29年の地域住宅グループによる「気仙 環境共生地域木造」で実を結ぶことになる。

陸前高田周辺は、海と山、そして川が流れ、それぞれの地域で家の作り方も住み方も違う。そんな地域特性に対応できるよう、躯体の外皮の断熱性を高め、中は自由に区切れるようにした。年月が経って家族構成が変わってもできるだけ大きな改修をせずに長く住み続けられることを大きな目的とした住宅だ。断熱は3地域仕様で、エアコン一台で暮らすことができる。

その後、この「気仙 環境共生地域木造」を応用した住宅を手掛けてきた。例えば、津波で流され、寄付で再開したジャズ喫茶「ジョニー」も及川さんの手によるもの。地域の仲間である小山公喜さんの自宅は、令和元年に竣工した。

裸足が気持ち良い家に友人たちが集まる

小山さんは、現在、気仙川漁業協同組合の代表理事組合長を務める。

もともと陸前高田市役所に勤務する土木技師で、被災地の復興にあたって造成などに奔走、震災後の日常生活もままならないなか、仮設住宅で派遣職員との交流会（呑み会）を開くなど地域コミュニティのなかでも大きな役割を果たした人でもある。

そんな小山さんが陸前高田の地に自宅を新築するにあたり、及川さんに見せたのが一枚の大きな木の板。「この板でつくるテーブルが生きる家を」―これがすべてのスタートとなった。

高田松原の海を臨む高台に完成した45坪の平屋住宅は〝みんなが集まる場所〟となった。シンプルな四角い家は、24畳のリビングと10畳の厨房、8畳の主寝室と2つのゲストルームからなる。ヒノキ5寸の大黒柱と4寸の柱や梁を現しで使う大空間のリビングにはドンと大きな木のテーブルが置かれ、壁際の戸棚には酒瓶がずらり。壁には120インチのスクリーン、プロジェクター、AVシステムを備える。

このリビングに面したウッドデッキには下屋が設けられ、庭へとつながる。庭先でバーベキューをし、雨が降ってきたらデッキやリビングで飲み直し。この遊び心にあふれた〝隠れ家〟という呼び方がぴったりの空間には、及川さんなど地域の仲間が集まり、登山や釣り、音楽などの趣味の友人が訪れ、さらには復興の取り組みでこの地を訪れた大学生らが卒業してからも遊びに来る。

下屋で日差しをコントロール風の通り抜けも計算

「気仙 環境共生地域木造」をベースとしたこの家は、充填断熱が高性能グラスウール120㎜、付加断熱が高性能グラスウール90㎜でQ値は1・15、C値は0・31という高い性能を。加えて、熱交換ユニットで温められた不凍液を25℃前後の低温で家中に回し、各部屋のパネルによる輻射暖房を取り入れている。また、パッシブの考え方を取り入れ、リビングの高さ2200㎜という大きな掃き出し窓からの日射は、シミュレーション通り、春分・秋分の日にちょうど窓の下まで。夏の暑い日差しを遮り、冬はリビングの半分ほどまで暖かな陽光が入る。

また、玄関土間とリビングを区切る障子は段ごとに取り外しが可能で、リビングから寝室の窓へと一直線に風が抜ける。厨房の天窓は電動開閉が可能で、ここからも空気が上に抜ける。

無垢の床材とあいまって、床暖房を入れているわけでもないのに足元がほのかに暖かい。室内は、一年を通じてほぼ一定の温度に保たれているという。

小山さんの「裸足が気持ち良い家」との言葉が、この家の人が集まる理由の一つを現しているようだ。

小山様邸のリビング。地域の仲間が集まる貴重な場所だ